

観察した鳥類チェックリスト

- | | | | |
|-------------|------------|-----------|-----------|
| ★キジ目 | ★ツル目 | ★ハヤブサ目 | □ ツグミ |
| ・キジ科 | □ クイナ | ・ハヤブサ科 | □ ジョウビタキ |
| □ キジ | □ バン | □ チョウゲンボウ | ・スズメ科 |
| ★カモ目 | □ オオバン | □ ハヤブサ | □ スズメ |
| ・カモ科 | ★チドリ目 | ★スズメ目 | ・セキレイ科 |
| □ コブハクチョウ | ・チドリ科 | ・モズ科 | □ キセキレイ |
| □ オカヨシガモ | □ タゲリ | □ モズ | □ ハクセキレイ |
| □ ヨシガモ | □ ムナグロ | ・カラス科 | □ セグロセキレイ |
| □ ヒドリガモ | □ コチドリ | □ カケス | □ タヒバリ |
| □ マガモ | ・セイタカシギ科 | □ オナガ | ・アトリ科 |
| □ カルガモ | □ セイタカシギ | □ ハシボソガラス | □ カワラヒワ |
| □ ハシビロガモ | ・シギ科 | □ ハシブトガラス | □ アトリ |
| □ オナガガモ | □ タシギ | ・シジュウカラ科 | □ ウソ |
| □ コガモ | □ イソシギ | □ ヤマガラ | □ シメ |
| □ ホシハジロ | ・タマシギ科 | □ シジュウカラ | □ コイカル |
| □ キンクロハジロ | □ タマシギ | ・ヒバリ科 | ・ホオジロ科 |
| □ ミコアイサ | ・カモメ科 | □ ヒバリ | □ ホオジロ |
| ★カイツブリ目 | □ ユリカモメ | ツバメ科 | □ カシラダカ |
| ・カイツブリ科 | □ セグロカモメ | □ ツバメ | □ アオジ |
| □ カイツブリ | □ オオセグロカモメ | ・ヒヨドリ科 | □ オオジュリン |
| □ カンムリカイツブリ | ★タカ目 | □ ヒヨドリ | |
| □ ミミカイツブリ | ・ミサゴ科 | ・ウグイス科 | □ |
| □ ハジロカイツブリ | □ ミサゴ | □ ウグイス | □ |
| ★ハト目 | ・タカ科 | ・エナガ科 | □ |
| ・ハト科 | □ トビ | □ エナガ | □ |
| □ キジバト | □ チュウヒ | ・メジロ科 | |
| ★カツオドリ目 | □ ツミ | □ メジロ | (外来種や家禽) |
| □ カワウ | □ ハイタカ | ・ヨシキリ科 | □ バリケン |
| ★ペリカン目 | □ オオタカ | □ オオヨシキリ | □ ガチョウ |
| ・サギ科 | □ ノスリ | ・セッカ科 | □ アヒル |
| □ ヨシゴイ | ★ブッポウソウ目 | □ セッカ | □ ドバト |
| □ ゴイサギ | ・カワセミ科 | ・ムクドリ科 | |
| □ アマサギ | □ カワセミ | □ ムクドリ | |
| □ アオサギ | ★キツツキ目 | ・ヒタキ科 | |
| □ ダイサギ | ・キツツキ科 | □ シロハラ | |
| □ チュウサギ | □ コゲラ | □ アカハラ | |
| □ コサギ | | | |

鳥の博物館手賀沼定例自然観察会

【6月のテーマ】

6

歌で楽しむ自然観察

案内人: 木村 稔 (鳥博市民スタッフ)



唱歌「夏は来ぬ」の楽譜と、歌詞に登場するウツギの花、および歌詞にある生き物たちが生息する水辺の環境。

「夏は来ぬ」

先月、時代はついに平成から令和に変わりましたが、令和という元号は日本で初めて、中国ではなく日本の古典、『万葉集』を元にして作られました。この万葉集の研究者として名高い佐佐木信綱は、子どものための唱歌の作詞も行っています。そして、1896年(明治29年)5月に発表されたのが「夏は来ぬ」でした。その歌詞には手賀沼の周辺にも生息するような鳥たちが登場します。そこで今回のてがたんでは令和にちなみ、万葉集とも関係のある、この「夏は来ぬ」の情景を観察してみたいと思います。歌の情景は、心のふるさとを思い出させてくれることでしょう。

2019年6月8日(土)

てがたんは毎月第2土曜日午前10時から *連絡先 我孫子市鳥の博物館 電話04-7185-2212

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

1. 万葉集に登場する「令和」

万葉集 第五卷 梅花の歌、32種の序文 の一部

※第五巻は 聖武天皇の時代(728-733年)

とき しよしゆん よ つき きよ かぜ なご うめ かがみ まえ
「時に初春の**令**き月、氣淑く風**和**み、梅は鏡の前の
粉を披き、蘭は珮の後の香を薫らす。」

出典：『岩波文庫 新訓 万葉集 上巻』佐佐木信綱編 岩波書店 p217

2. 「夏は来ぬ」の作詞者について

佐佐木信綱は、三重県鈴鹿市石薬師町出身。東京帝国大学文科大学古典科卒。東京帝国大学講師、文学博士。主な著書は、『校本 万葉集』、『新訓 万葉集 新訂改版』、『山家集 新訂』、『新古今和歌集 新訂』、『梁塵秘抄(校訂)』、『藤原定家集(校訂)』等

出典：『明治文学全集63巻』筑摩書房



佐佐木信綱

(1872(明治5)-1963(昭和38))

3. 歌詞

夏は来ぬ
うの花の、におう垣根に
時鳥、早もきなきて
忍音もらず、夏は来ぬ
さみだれの、そそぐ山田に
早乙女が、裳裾ぬらして
玉苗植うる、夏は来ぬ
橋の、かおるのきばの
窓近く、螢とびかい
おこたり諫むる、夏は来ぬ
棟ちる、川べの宿の
門遠く、水鶏声して
夕月すずしき、夏は来ぬ
さつきやみ、螢とびかい
水鶏なき、卵の花さきて
早苗うえわたす、夏は来ぬ

万葉集の歌
ほととぎす 来鳴き響もす 卵の花の 共にや来しと 問はましものを 石上堅魚

※ 歌詞の字数を数えてみると、短歌や俳句と同様に、5字、7字、5字、7字、7字、5字となっており、5・7調)がわかります(5・7調)。これは日本らしい歌の特徴です。

夏は来ぬ
作詞 佐佐木信綱
作曲 小山作之助

4. 歌詞の中に登場する鳥



ホトギス
カッコウ科 全長 27.5cm

鳴き声は「鳴かぬなら」という戦国武将のたとえで有名で、「特許許可局」と聞えます。



ヒクイナ
クイナ科 全長 22.5cm

鳴き声は、クツ、クツ、クツ、.....と一定の間隔で、電子音のようです。

5. 手賀沼に生息する、その他のクイナ科の鳥



オオバン
全長 39cm

同じ仲間でも、オオバンだけが水かきのついた「弁足」をもっています。



バン
全長 32.5cm
額が白くない点と、翼や尾羽に白い部分のある点がオオバンとは異なります。



クイナ
全長 29cm

「夏は来ぬ」に登場する「水鶏」はクイナではなくヒクイナのことを指しています。